

やまゆりニュース

「やまゆりニュース」第7号 発行日：平成24年4月1日
 発行元 NPO法人あさお市民活動サポートセンター
 〒215-0021 川崎市麻生区上麻生1-11-5
 TEL. 044-951-6321 FAX. 044-951-6467
 発行人：植木昌昭 編集人：佐々木直子

川崎市麻生区市民活動支援施設 麻生市民交流館やまゆり

目次：

大震災の教訓 ～新しい気運を現実のものに～	1
A【安心】 地域の安心・安全 ～防災ワークショップに参加して～	2
S【サプライズ】 ご存じですか？ ダムのない麻生区で水力発電	2
A【アミューズメント】 夢を探しに、川崎市 藤子・F・ 不二雄ミュージアムへ	3
O【おもしろ話】 麻生の民話「河童の詫び証文」	3
第3回 区民講師公開講座 ・やまゆりスタッフ紹介 Vol.1	4



大震災の教訓 ～新しい気運を現実のものに～

川崎市には自治にかかわる最高規範として川崎市市民自治基本条例（以下:条例）が制定されている。その9条に自治運営を担う主体の一つとしてコミュニティが位置づけられている。また、市は条例でコミュニティを育て、その活動を尊重すると謳っている。しかし、市が条例で期待しているようにコミュニティは市民自治の担い手として新たな展開を見せてきただろうか。確かに市はコミュニティを育てる努力をしてきた。例えば、平成20年4月には「川崎市都市型コミュニティ検討委員会」を設置し、その提言のなかで「地域コミュニティの核となる『町内会・自治会』（以下:町内会）とテーマ別に活動しているさまざまな市民活動団体の連携の仕組みをどう構築していくか」について問題提起をしている。麻生区区民会議はさらに進めて、区内の町内会の活動成果や工夫などをまとめた都市型コミュニティ活動事例集『あいさつが交し合える地域づくり』を作成。町内会にその活用を提案した。ただ、残念なことに、両提案とも区民はおろか、まちづくり当事者にすら周知されているとは言えない。

ところが、東日本大震災をきっかけに、変化の兆しが見えてきた。例えば、「麻生区町連だより」にその一端が見て取れる。百合丘1丁目町会の今村会長は最重要課題として「特に自主防災組織は3月11日の東日本大震災の実体を知るにつれ、現在の組織では即応できないことを痛感しました。この課題解決に一番必要のことは、地域コミュニティの構築だと考えられるので『挨拶運動』を強力に展開しています。」と活動を紹介。王禅寺町内会の

久保倉会長は「東日本大震災の教訓を受け近隣住民の相互連絡をいかに密にするかを、ゴミ集積所の利用区分をミニマムの単位に設定して強化する計画を検討中です。」とアイデアを披露している。このほかにも各町内会が防災を軸にしたコミュニティづくりに真剣に取り組んでいる様子が同紙からうかがえる。

平成7年に発生した阪神淡路大震災を契機にボランティア活動が社会貢献活動として認知され、市民権をえた歴史がある。東日本大震災を経験し、数年後には首都圏にも大きな震災が起きるであろうと取りざたされている今こそ、地域コミュニティが、希薄化している地域への帰属意識や連帯感を取り戻し、再構築に取り組むまたとないチャンスと考える。

NPO法人あさお市民活動サポートセンター（以下:NPO サポセン）は、前述のように盛り上がりを見せている地域の気運を高め、こころの通うコミュニティを定着させるためにお役に立ちたいと考えている。

NPOサポセンは平成20年度から麻生区役所からの委託をうけ「地域課題対応事業」・「麻生区地域コミュニティ活動支援事業」として活動資金の助成を行ってきた。平成24年度は4月27日に23年度実施事業報告会ならびに24年度の説明会を開催、5月28日には応募事業のプレゼンテーションを予定している。

地域でコミュニティづくりにつながる新しい活動を考えている団体の皆様は、是非ご応募してみてください。お待ちしております。

NPO法人あさお市民活動サポートセンター理事長
竹市 八郎





Anshin 安心

地域の安心・安全

～防災ワークショップに参加して～



麻生

まちづくり学校「自らの地域は自らで守るワークショップ」が、1月21日麻生区役所会議室で行われた。

参加者10名は2グループに分かれ運営委員も加わって、実際に大地震が起きた場合何が不安かポストイットに書き出し話し合った。はじめは相手のことがわからず互いの主張がかみ合わない。それぞれの問題意識や課題も違う。様子見の人もある。相手の話を聴くことでしだいに質問もできるようになり、後半から話が盛り上がっていった。

今回ワークショップに参加してわかったことは、いざ避難所に集まったとき、どうやってみんなで話をまとめ、意志の疎通をはかることができるかが、災害時すごく大事だということ。日頃から、地域で自由に話し合える＜場＞を作っておくことが大切だと思った。

取材・撮影・文 丸山とし子



グループごとに発表

ルイシャトレ新百合ヶ丘の取り組み

百合丘3丁目のルイシャトレ新百合ヶ丘(44戸)では大地震が起きたとき、自分たちで何ができるかを話し合われている。例えばマンション管理室電話番号を利用し、災害用伝言ダイヤル『171』に被災状況を録音すること、マンションの集会所をご近所の一時避難所として開放し、近隣の方と協力しあえるような環境作りをしていくこと、市内で震度5強以上が観測されると小学生は保護者が迎えに行くまで学校に待機となるが、帰宅困難な親に代わってマンションの代表者が子ども達を迎えに行くことができないかなどを、推進・検討している。

ルイシャトレ新百合ヶ丘・大地震対応委員会事務局の田中さんは、阪神・淡路大震災で父親を亡くされた。震災を体験した人が体験しない人に防災を伝えていくことが大事だと考えている。



前田理事長(左)と田中さん(右)



Surprise サプライズ

ご存知ですか？

ダムのない麻生区で水力発電

1997年、地球温暖化防止を目指した京都議定書が採決された。以来、再生可能エネルギー(※注1)の風力、太陽光、水力、地熱、バイオマスなどの一つとして、家庭に水道水を送る圧力を利用して電気をつくる、マイクロ水力発電を取り入れる水道局が全国で増えている。

近くでは宮前区に2006年に運転を開



水車・発電機

直径2.8メートルの水車(毎分500回転)

写真提供: 神奈川県企業局発電課

始した鷺沼発電所があり、最大出力は90キロワット。

一方、麻生区黒川にある柿生発電所は古く1962年に運転を開始し、最大出力は680キロワットと大きい。津久井分水池(相模湖)で受水した水を長沢浄水場に送る途中で、落差12.2メートルの地形を利用して発電している。年間の発電量は、4,865,000kwhで、東京電力に納められ、1,350軒分の消費をまかっている。石油火力で同量の発電をした場合と比較して約3,600トンのCO₂(二酸化炭素)削減効果があり、この削減量は約160haの森林(生田緑地の1.4倍の面積)が吸収するCO₂量に相当す



設備は2006年に更新された

る。発電に利用した水はそのまま長沢浄水場に運ばれ、無駄なく水道水として使われる。そのため発電設備で水中にある部分は油の要らない構造とし、汚染防止が施されている。

なお、柿生発電所は施設内が手狭まで、また、無人のため普段は非公開であるが、団体での見学希望の場合は相模川発電管理事務所(TEL. 042-782-0821)に相談されたい。

取材・文 中島久幸

(※注1) 絶えず資源が補充されて枯渇することのないエネルギー。利用する以上の速度で自然に再生するエネルギーの意味



Amusement アミューズメント



夢を探しに、藤子・F・不二雄ミュージアムへ

皆さん、向ヶ丘遊園跡地の一角に昨年オープンした「川崎市 藤子・F・不二雄ミュージアム」にはもう行かれましたか？ 日時指定の完全予約制なので、オープン当初はなかなかチケットが取りにくい状況でしたが、最近は平日であればいくら取りやすくなっています。

来場者は子どもたちが多いのかなと思っていましたが、18歳以上の大人券の入場者が7～8割を占めているそうです。皆さん思い出があるのでしょうか。展示は毎月入れ替えているので、リピー

ターも多いと聞いて納得。

伊藤善章館長の話では、オープンしてしばらくはスタッフも不慣れで、さまざまなトラブルもあったそうですが、来場者の要望やクレームをアンケートなどで吸い上げ、ひとつひとつ問題を解決していったことで、最近はスムーズに運営できるようになってきたそうです。

ここは夢を売るところ、これからも開館当初の美しさを保つためのメンテナンスや、新企画を取り入れて、より楽しいミュージアムを目指すということです。

オリジナルメニューがあるカフェは人気で、場合によっては長時間待つこともあるため、入館後まずカフェに直行、番号札を受け取ってから、館内を見てまわり、最後に食事をしながら感激を味わうという方法もあります。

麻生区から一番近いエンターテインメントミュージアム、一度足を運んでみませんか。子どもの頃に胸躍らせたあのキャラクター達が待っています。

取材・撮影・文 橋本敏次



ミュージアムのエントランス。窓枠は漫画のコマ割を模しているという



「ピー助の池」にいるのび太とドラえもん
©Fujiko-Pro

DATA

●住所：川崎市多摩区長尾2-8-1 ●問い合わせ：057 0-055-245(問い合わせ専用ダイヤル) ●アクセス：小田急線・JR南武線「登戸駅」から川崎市バス直行便運行(所要時間約9分)／小田急線「向ヶ丘遊園駅」から徒歩16分／JR南武線「宿河原駅」から徒歩15分 ●休館日：毎週火曜、12月30日～1月3日 ●開館時間：10時～18時 ●入館時間：1日4回(10時、12時、14時、16時)の事前予約制 ●チケットの購入：川崎市民は偶数月の21日から2ヶ月後、3ヶ月後のチケットをJTBトラベランド新百合ヶ丘などで販売(要市内在住証明書)。毎月30日(2月は最終日)に翌々月分をローソン各店で発売。●料金：大人・大学生1000円、高校・中学700円、子ども(4歳以上)500円 3歳以下無料
※詳しくは電話またはホームページで。



Omoshiro=banashi おもしろ話

麻生の民話「河童(カッパ)の詫び証文」

河童の話は日本全国にあるが、ここ麻生にも鶴見川にまつわる民話「河童(カッパ)の詫び証文」がある。昔の鶴見川は、くねくね曲がった川で深い瀬があり、そこに河童が住んでいたという。

あらすじはこうだ。

『岡上の東光院の和尚が麻生の葬式に行った帰りのことだが、寺男(寺で働く人)が馬を川で洗って、一休みしている隙に、河童が

馬を淵に引き込んだ。馬は尻子玉(※注1)を抜かれて死んでいた。尻子玉は河童の祝い事には欠かせないご馳走だった。翌日、また麻生で葬式があり、常安寺の和尚も馬で葬式に出かけた。和尚は、東光院の馬や泳いでいた子どもが尻子玉を抜かれて死んだことを知っていたので、仕返しをしようと考えていた。和尚は寺男に馬を洗い場に連れて行かせ、自分もそっとその後をつけていった。裸の寺男が着物を着ようとしている隙に、河童が馬を曳いて淵へ引きずり込もうとしていた。これは大変と、和尚は河童に飛びついて後ろ首筋をむんずとつかんで吊るし上げた。村人も、棒で甲羅を強くたたいて懲らしめた。河童は、ピーヒョロピーヒョロと大声を上げて詫びたので、和尚は詫び証文を書かせ



詫び証文があるという常安寺(上麻生)

て許した。「これから決して人や馬の尻子玉を抜きません。違反したら追放されても苦情は申しません」と筆で書いて、兵六と署名し手形を押した。その後、悪事はしなくなった。その詫び証文が常安寺に残っているそうだ』という話。

常安寺の住職に証文について尋ねた。「夢をこわすようですが、証文はありません。河童たちが仲間を、この寺に葬ったという話もありますが、それも物語りです」と、笑って話した。

取材・撮影・文 石崎純也



鶴見川で遊ぶ河童たち(画 石崎)

(※注1) 尻子玉(しりこだま)：肛門にあると想像された玉。河童が抜くというもの。(大辞林)
＜参考資料＞川崎風土記「河童の手形」、川崎の民話と伝説「河童の詫び証文」

第3回 区民講師・公開講座

今年も、区民講師公開講座が開催されています！

4月

7日(土)	14時～16時30分	麻生に残る義経史話について	松本 良樹
14日(土)	14時～16時	元NHKアナウンサーの思い出話	原 善三郎
21日(土)	14時～17時	もう一度ギターを始めてみませんか	中林 俊博

5月

12日(土)	14時～16時	幼老・親子を結ぶ「愛のぬくもり」心絵会	山田 葉根与
26日(土)	14時～16時	洗剤など、日用品の安心・安全にかかわる話	吉田 美穂子

6月

20日(水)	14時～16時	音を楽しむ・オカリナ体験講座	小棚木恵美子
23日(土)	14時～16時	高校留学とホストファミリーのススメ！！	井手 秀彦
30日(土)	14時～16時	地上の楽園 ～エクアドル～	沼田 Anna

★開催月の1ヶ月前に、講座のチラシを配布します。詳細はチラシを参照ください。

申込はチラシ裏面にてお願いいたします。主催 NPO法人あさお市民活動サポートセンター

相談員紹介

毎号「やまゆり」の市民活動相談窓口の相談員を紹介していきます。

Vol.1



しのはら ふみしげ
篠原 文成

「やまゆり」の開館時から、市民活動相談窓口の相談員を担当しています。

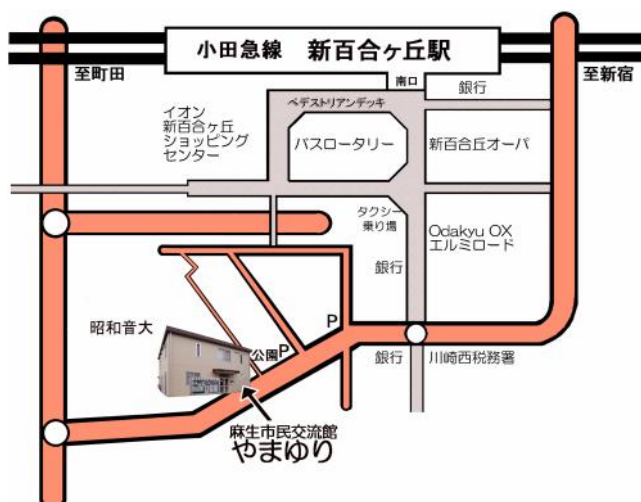
退職後、地域との繋がりの薄さが気になりボランティア活動に参加するようになりました。相談に来られる方々には、地域との繋がりがや生き甲斐を見付けていただく何らかのキッカケになればと考えてお話をしています。お役に立てばと思っています。



つだ やすし
津田 祺

旧区民活動支援ルーム等の活動を通じて麻生区には多くの各種団体やサークルがあり、活発に活動していることを知りました。やまゆり「相談窓口」での団体紹介や場所の案内などに微力ながらお役に立てるのでと考え、4年前に相談員になりました。

相談に来られる方の気持ちを汲み取り対応できるよう努めています。気軽にお越しください。



NPO法人あさお市民活動サポートセンター

●所在地

神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-5

TEL.044-951-6321 FAX.044-951-6467

小田急線「新百合ヶ丘」駅 南口から徒歩4分

●開館時間

月～金 9時30分～17時

※平日夜間・土日・祝日も予約すれば利用可

●休館日

年末年始(12/29～1/3)、施設点検日

●ホームページ

<http://web-asao.jp/yamayuri/>